



日本植物病理学会ニュース 第16号

(2001年8月)

【名誉会員・永年会員の略歴とお話】

名誉会員 後藤正夫



昭和6年3月1日静岡県生まれ。昭和26年静岡県農林専門学校農学科卒業。昭和26年静岡大学助手雇員、昭和28年同助手、昭和40年同助教授、昭和48年同教授、平成6年同定年退官、名誉教授。平成6年MOA自然農法大学校講師、現在に至る。昭和36年農学博士。昭和46年日本植物病理学会賞受賞。平成11

年日本農学賞、読売農学賞受賞。昭和45年～平成8年病名調査委員会委員、昭和51年～平成9年評議員、昭和53年～平成5年IUMS細菌命名委員会委員。平成5年IUMS細菌分類委員会委員・同アジア地区連絡委員(2年)。平成4年関西部会長(1年)。平成4年日本学術会議植物防疫研究連絡委員会委員(2年)。第2回、第3回、第4回国際植物病理学会議組織委員会細菌病部会委員、第5回国際植物病理学会議組織委員会プログラム委員長。

私は40余年にわたって植物病原細菌の特性を、分類学、生理学、生態学の視点から研究してきました。この間、昭和38年にはIRRIで東南アジアのイネ細菌病について研究し、昭和41年にはカリフォルニア大学細菌学科で細菌分類学を勉強し、昭和43年には全インド水稻改良事業の顧問としてイネ白葉枯病の研究を立ち上げ、昭和52年にはカンキツかいよう病対策顧問としてアルゼンチンで指導にあたり、さらに平成4年と平成6年にはJICA短期専門家として中国の樹木細菌病の調査研究に従事しました。現在は“Lab. pathologist”から“Field pathologist”に転じて、圃場に発生する作物のさまざまな病害についてリアルタイムで観察・追跡しております。教科書の記述と違う発生状況の現場に遭遇するたびに、植物病理学の奥の深さと面白さを実感しております。そして調査研究した結果を後世に

残す場を与えてくれる学会の有り難さと、その学会に研究者として育てて頂いた幸せをしみじみと噛み締めている昨今であります。

永年会員 兼子 勇



大正15年1月27日山形県に生まれる。昭和19年寒河江中学から陸士予科を経て20年11月盛岡農専に転入学、植物病理学を専攻、永井教授の指導を仰ぐ。食糧難で受講10ヶ月23年3月卒業。休講中山形農試で松浦技師のイネ紋枯病研究に関わる。昭和23年4月農林省農地課に採用、同年8月農政局農産課に配置換え7月輸出入植物防疫法成立。検疫時報(後に植物防疫)発刊に助力。同25年5月植物防疫法が制定、国内の検疫及び防疫迄網羅、26年には食糧、木材、種馬鈴薯検疫も開始、定員も急増、同年2月には植物防疫課が発足した。規定、要綱等も施行された時期であった。同27年対米輸出みかんカンキツ潰瘍病無病地帯設定のため、和歌山県を調査。同29年横浜植物防疫所に配置換え、輸出検疫を担当、千葉県の対米グラジオラス栽培地検査で赤斑病類似症状を発見したが、学会に発表できず残念。同36年東京支所に転じ、八丈島のフリージア栽培地検査で、昔から忌地病と言われた大量の青枯症状は、菌核病であることが判明した。同42年秋田出張所長。秋田大学塚本教授主宰の生物研究会に参加。同47年大阪支所管理官。同52年横浜植物防疫所国際2課管理官。同54年伏木支所長。同57年清水支所長。同58年4月退官。同年5月第一園芸(株)技術顧問、テクノホリティ園芸専門校講師、エラブユリウイルス病対策に鱗片繁殖を導入。エラブユリ・フリージヤ球根ネダニに耐性ができ、トクチオソ千倍球根30分浸漬が有効(野菜試桑原氏)。エラブユリ茎腐疫病は新病害(横浜植防)カスミ草

苗コブ病は *Erwinia herbicola* と判明（静岡農試牧野氏）。グラジオラス連作障害防止には、隔2年作堆肥5トン/10a木子栽培が有効。グラジオラス球茎の腐敗防止には、10月上旬掘上げ直後薬剤消毒が有効。カーネーション、カスミ草萎縮叢生症が和歌山県に送った長野産カスミ苗から大発生した。東大難波教授の診断では接ぎ木伝染、土壌伝染、ファイトプラズマ、ウイロイドいずれも陰性であった。平成9年四国農試から高温、多灌水下で発症すると発表。平成7年退職。

植物防疫所、特に横浜の方には数々の同定を依頼し、厚くお礼申し上げます。学会の繁栄と皆様のご健勝を祈ります。

永年会員 澤村健三



大正14年4月14日、北海道で出生。昭和19年北海道大学予科（農類）入学、昭和25年3月北海道大学農学部農業生物学科卒業。同年4月、農林省東海近畿農業試験場園芸部（静岡県興津町）に勤務。田中彰一部長、北島博研究室長、山田駿一技官の指導を受けカンキツ病害研究の助手となる。岸國平、宮川経邦氏と机を並べて切磋する。

昭和28年6月農林省東北農業試験場園芸部（青森県藤崎町）に転任。以後主としてリンゴ病害の研究に従事。今や世界第3位の生産量を誇るリンゴ「ふじ」を育成した試験場であった。昭和35年、新人として柳瀬春夫氏が採用された。

昭和36年、かねての方針通り全場挙げて「ふじ」原木とともに盛岡市へ移転となった。やがて機構改革によって園芸試験場盛岡支場と改称される。昭和42年、星野好博氏に代わって病害研究室長となる。同年、「リンゴ斑点落葉病に関する研究」で北海道大学より農学博士の学位を受く。昭和46年、リンゴ高接病の病原ウイルスの解明のため「日本におけるリンゴの潜在ウイルスに関する研究」をテーマにワシントン州立大学 Mink 博士との盛岡での共同研究が決まっていたが、山口昭氏に後を託して弘前大学に出向することを決めた。弘前大学では20年間勤務し、原田幸雄氏の協力で、大勢の卒業生を世に送り出した。平成3年3月定年退官。現在名誉教授、青森県植物防疫協会顧問。昭和47年より平成3年まで病理学会評議員、東北部会長を2回（昭和48年、62年）勤める。

研究生涯を振り返ってみると、内心忸怩（じくじ）たる

ものがあるが、何の巡り合わせかリンゴの歴史的な病害と出会ったことが幸いであった。やり残したことばかりであるが、後輩の皆様に期待したい。

永年会員 安盛 博



大正15年2月18日京都市に生まれる。昭和23年京都大学農学部農林生物学科に入学、翌年植物病理学講座に入り、赤井重恭教授より卒論指導を受ける。昭和26年卒業後、直ちに同講座助手となり、昭和41年島根農科大学植物病理学講座山本昌木教授のもとで助教授となる。その間、ウリ類たんそ病に関する研究により、昭和39年京都大学農学博士の学位を受ける。

昭和41年群馬県林業試験場に移り、樹病関係の仕事をと思っている矢先、林業試験場長に任命された。そのため、林業全体の知識を勉強しなければならず、さらに高崎市にあった約5町歩の林業試験場が厚生省の施設として買収されるので、移転を余儀なくされ、その候補地の選定と移転業務もこなさなければならなくなってしまった。慣れない土地で、全く経験のない仕事であり、土地買収交渉のため毎夜、農家に出掛けようのうな情況であった。それでも約2年を掛けて、約7町歩の新しい林業試験場が完成した。そしてその後は場内に、県民に広く森林の重要さをわかってもらうための樹木園と、林業普及のための実験林を別の地に造った。その間も、個人的には樹木病害などの病原菌鑑定や腐朽菌の研究を続けていた。

昭和55年、群馬県立女子大学（4年制）が設立され、生物担当教授として迎えられた。研究も自由に出来るようになったので、もう一度自然を広く環境の立場から見直し、樹病学の在り方なども考えたいと思うようになった。そのためマツタケ菌の胞子発芽の研究や、カナダのロッキー山脈に出掛けたり、できるだけ多くの植物を観察した。また、林業試験場長になった頃から県の文化財保護審議会（樹木担当）をしていたので、天然記念物指定のため県内各地を歩くことが多かった。大学定年後は県の天然記念物指定物件のまとめや指定手引書、樹木医ハンドブックなどを出版したりすることになった。最近は全国巨樹・巨木林の会の理事などもし、アメリカのカリフォルニア州の世界最高の木、世界最長寿の木を見に行ったりした。

生涯を通じ、植物病理学に専念できた人は幸せだと思うが、回り道した人生もまた楽しいものであった。植物病理

学会の発展を願って止まない。

【平成13年2月～5月の学会活動状況】

1. 大会開催報告

平成13年度大会は平成13年4月2日から4日までの3日にわたり仙台国際センターで開催された。大会参加者は941名にのぼり、393題の講演発表がなされた。懇親会参加者は575名であった。また、名誉・永年会員からは17名もの先生方が参加してくださり、盛会のうちに終了することができた。

今大会では、オーバーヘッドプロジェクター(OHP)を用いた講演がはじめて行われたが、大きな混乱もなくすべての発表を無事終えることができた。また、講演全体を通じて活発な議論が交わされた。

本大会運営委員会は東北地区の会員により組織されたが、開催にあたっては、宮城県、仙台市、協賛会社などからの多大なご支援をいただいた。ここに記して感謝の意を表したい。

(大会事務局)

2. 研究会開催報告

(1) 第4回植物病害生態研究会

第4回植物病害生態研究会は平成13年4月5日(木)に東北大学川内キャンパスで72名が参加して開催された。今回は前半を「さび菌の生態、生存戦略とその防除」とのテーマで筑波大の柿嶽 真教授の座長により、青森農試の岩間俊太氏が「ニンニクさび病の生態から見た防除法の検討」、弘前大学の原田幸雄教授が「さび菌の生存戦略をかいま見る」と題する講演、後半は「抵抗性マルチラインは永続的か?」のテーマで神戸大学の土佐幸雄助教授の座長により、宮城古川農試の笛原剛志氏が「ササニシキマルチラインにおけるいもち病菌のレース頻度の変遷」、中央農研センター北陸の佐々木雅子氏が「いもち病菌の病原性変異要因としての準有性的組み換えと突然変異」、九州大学理学部の佐々木頤助教授が「植物と病原菌の遺伝子対遺伝子相互作用にもとづく共進化と空間ダイナミックス」と題した講演の後、それぞれのテーマに関して非常に活発な総合討議がもたれた。次回は14年度大会翌日に大阪府立大学で開催する予定である。

(石黒 潔)

(2) 第11回殺菌剤耐性菌研究会

この研究会のシンポジウムは、平成13年4月5日、東北大学川内キャンパスで、131名の参加を得て開催された。東北地方における耐性菌関連の試験研究事例として、リソゴ褐斑病(秋田果樹試、佐藤 裕氏)、ブドウ晚腐病(秋

田果樹試天王、深谷雅子氏)、花き類灰色かび病(フランセンター21あおもり、杉山 悟氏)が紹介された後、新規薬剤であるフェンヘキサミド(商品名パスワード、日本バイエルアグロケム(株)、沢田治子氏)、シアゾファミド(商品名ランマン、石原産業(株)、三谷 滋氏)に対する感受性検定法とベースラインデータが示された。続いて、イネ、ムギ、野菜(JA全農大阪支所、武田敏幸氏)と果樹(茨城農総セ園芸研、富田恭範氏)におけるDMI耐性菌問題の経過と現状が述べられた。アメリカコーネル大学から招いたWolfram Koeller氏は、リンゴ黒星病菌のDMI剤とストロビルリン系薬剤に対する耐性菌問題をまとめて紹介した。最後に、「耐性菌検定を現場に生かすには」と題して、静岡農試の外側正之氏と前出の富田恭範氏が問題点を整理し、なすべき対応について、会場の参加者とも議論した。なお、講演要旨集(1部2,000円)をご希望の方は、研究会事務局(農環研農薬影響軽減ユニット、TEL & FAX: 0298-38-8307)までご連絡下さい。(石井英夫)

(3) 第7回バイオコントロール研究会

第7回バイオコントロール研究会は、「IPMの中における生物防除—現状と展開—」をテーマに、平成13年4月5日、東北大学川内キャンパスにおいて、200余名の参加を得て開催された。研究会では、「IPMの中における生物防除」(農環研、對馬誠也氏)、「マルチラインを利用した稲いもち病防除」(宮城農セ、辻 英明氏)、「栽培環境変による畑作物病害の制御とその展開方向」(北海道大学農学部、内藤繁男氏)、「イネいもち病の栽培管理および発生予察によるIPM」(東北農研セ、小林 隆氏)、「熱水土壤消毒の効果と問題点」(九州・沖縄農研セ、西 和文氏)、「化学物質による植物の全身獲得抵抗性の誘導」(理研、山口 勇氏)、果樹病害の生物防除—研究の現状—(果樹研、大津善弘氏)の講演が行われ、さらに「PGPR研究の現状と展望—第5回国際PGPR会議報告から—」(福井農試、岡本 博氏)によるPGPR研究の最新情報が紹介された。総合討論ではIPM推進上の問題点等に関して熱心な討議が行われた。なお講演要旨集をご希望の方は、研究会幹事(農環研微生物分類研 e-mail: seya@affrc.co.jp)までご連絡下さい。(對馬誠也)

【学会関連各委員からの報告】

1. 日本学術会議報告

第18期の日本学術会議は平成12年7月26日に発足し、総会において、会長に吉川弘之氏(第5部)、副会長に吉田民人氏(第1部)と黒川 清氏(第7部)をそれぞれ選出

し、本期活動計画として、1) 人類的課題解決のための日本の計画の提案、2) 学術の状況並びに学術と社会との関係に依拠する新しい学術体系の提案、を採択した後、具体的な活動を開始した。第6部会では、部会長に山下興亜氏、副会長に松田藤四郎氏、幹事に浅見輝男氏と祖田修氏をそれぞれ選出し、本期活動計画として、1) 食・農・環境・生活等の問題解決の方法と方策、2) 21世紀の農学のあり方と研究教育体制の構築、を採択した後、これら2課題に関するそれぞれの分科会を発足させて具体的な活動を開始した。また、農林水産大臣諮問事項「地球環境・人間生活に関わる農業及び森林の多面的な機能の評価について」に対して、第6部を中心に積極的に対応することとした。一方、学術会議主催の公開講演会「食から見た21世紀の課題—日本の食はこれでいいのか」を平成13年3月19日に学術会議講堂で、また、第6部主催の公開学術講演会「循環型社会の形成と農学—未来世代のために我々は何ができるか」を平成13年7月5日に宇都宮大学大学会館で、それぞれ開催した。
（日比忠明）

2. 第18期第2回日本学術会議植物防疫研究連絡委員会議事報告

平成13年3月21日（水）に開催された標記委員会の概要を以下に記す。前回提案のあったヒアリングの第1回目として、日比委員より「植物病原菌の薬剤耐性の分子機構」についての話題提供がなされた。委員長から、学術会議総会・連合部会について、(1) 会議の原則公開、(2) 公開講演会「食から見た21世紀の課題—日本の食はこれでいいのか」が開催されたこと、(3) 農林水産大臣より学術会議に「地球環境・人間生活にかかる農業及び森林の多面的な機能の評価について」諮問された旨の報告があった。その他、平成16年度（2004）共同主催国際会議の募集について説明があった。

科研費審査委員の推薦（平成13年5月31日締切）について、研連内の委員配分の原則ならびに順番について、下記のように確認し了承された。

①植物保護一段審査員（定員6名、2年任期で半数交代）

研連内の配分原則：植病2、応動昆2、農薬1、雑草1
平成14年度予定：継続；応動昆1、農薬1、雑草1、
新規；植病2（4）、応動昆1（2）；括弧内は推薦人数

②植物保護二段審査員（定員1名、蚕糸研連と2年交代）

研連内の順番原則：植病と応動昆で交互

平成14、15年度予定：応動昆1（2）；括弧内は推薦人数

③応用分子細胞生物学一段審査員（定員12名、8研連で各1～2名）

研連内の順番原則：植病、応動昆、農薬で輪番

平成14年度予定：継続；植病1、新規；応動昆1（2）；
括弧内は推薦人数

なお、正式書類が来た時点で、該当学会は期日までに審査員の推薦をお願いしたいこと、①への微生物研連の参画は前期同様、お断りする旨が確認された。平成13年度シンポジウムは平成13年11月16日（金）13:00～17:00に、日本学術会議講堂で別項で記したように開催することとした。次回の委員会は平成13年9月12日（水）14時より、日本学術会議第6部会会議室にて行うこととし、次回のヒアリングを河野委員にお願いすることとした。
（寺岡 徹）

3. 日本学術会議微生物学研究連絡委員会報告

平成13年6月25日に開催され、下記の審議を行った。

日本学術会議の部会等の公開に伴う関係規則の一部改正案について委員長より説明があった。科学研究費の分科・細目が平成15年度公募をもとに大幅な見直し作業が進められているが、当委員会からは複合領域に「微生物科学」の新設を要求していた。委員長より学術体制常置委員会科学研究費分科会の見直し案では新分科として載った旨の報告があった。しかし、細目欄は空欄になっており、今後の検討に向けて、各学会においても魅力あるキーワードを考えるように依頼があった。国際微生物学連合 IUMS より、IUMS 役員の推薦依頼、2008年の開催地立候補の意志伺い、IUMS Award についての推薦依頼、By Law の改正の可否伺いが各委員宛届いているが、本委員会としては、一本化して対応することとした。但し、Award については、各学会が推薦者を出し、本委員会が後押しすることとした。この他、International Committee on Systematics of Prokaryotes から2002年 IUMS 開催までの期間の実行委員の推薦依頼があったが、この実態が不明でもあり、本委員会から一本化しては推薦しないこととした。WFCC (World federation of Culture Collection) の総会が日本で開催されるとの紹介があった。
（露無慎二）

4. 日本農学会報告

平成13年度日本農学会大会

日時：平成13年4月5日

会場：東京大学山上会館

本年度の日本農学賞および第38回読売農学賞の受賞者は次の7氏である。

1) 北海道における農業生産基盤と農村空間形成に関する研究

農業土木学会：北海道大学名誉教授 農村空間研究所長

梅田安治

2) カルシウム代謝および骨粗鬆症予防の基礎および応用に関する研究

日本家政学会：日本女子大学家政学部教授 江澤郁子

3) 第一胃内微生物のアミノ酸代謝と反芻動物の栄養に関する研究

日本畜産学会：宮崎大学農学部教授 小野寺良次

4) 天然の生物制御物質に関する生物有機化学的研究

日本農芸化学会：東北大学大学院農学研究科教授

折谷隆之

5) キャッサバ育種研究体制の確立と新品種の開発

日本育種学会：神戸大学農学部教授 河野和雄

6) 細胞内寄生性細菌による人獣共通感染症の制圧

日本獣医学会：岐阜大学大学院連合獣医学研究科教授
平井克哉

7) 鉄欠乏耐性イネの創製に関する研究

日本土壤肥料学会：東京大学大学院農学生命科学研究科
教授 森 敏

また、同日午後「農学領域におけるゲノムサイエンスの展開（Part 2）」というテーマでシンポジウムが開催された。

【今後の本学会の活動予定】

1. 平成14年度大会開催予定

平成14年4月3～5日（水～金）にオオサカサンパレス（吹田市）

詳細については学会報（和文誌）67（3）掲載予定

2. 平成13年度部会開催予定

（1）北海道部会：平成13年10月22～23日、北方圏センター（札幌市）

（2）東北部会：平成13年10月4～5日、秋田市文化会館

（3）関東部会：平成13年10月18日、つくば国際会議場エポカルつくば

（4）関西部会：平成13年10月20～21日、高知大学

（5）九州部会：平成13年9月27～28日、佐賀大学

【関連学会研究集会情報】

1. 第1回 糸状菌分子生物学コンファレンス

日時：平成13年11月8日～9日（木～金）

会場：東京大学農学部弥生講堂

シンポジウムおよび、口頭またはポスター形式による一般発表を行います。

詳細は、<http://www.biochem.osakafu-u.ac.jp/~fmbsj/>
をご参照ください。

問合わせ先：糸状菌分子生物学研究会

〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1

東京大学大学院農学生命科学研究科

北本勝ひこ

Tel. 03-5841-5161, Fax. 03-5841-8033

E-mail: akitamo@mail.ecc.u-tokyo.ac.jp

または

東京農工大学農学部植物病理学研究室

有江 力

Tel. & Fax. 042-367-5691

E-mail: arie@cc.tuat.ac.jp

【今後の関連国際研究集会情報】

1. **7th European Workshop on Virus Evolution and Molecular Epidemiology:** Leuven, Belgium, September 5-12, 2001.

Information: <http://www.kuleuven.ac.be/aidslab/veme.htm>

2. **The Asian International Mycological Congress 2001:** Tehran, Iran, September 17-20, 2001.

Contact: c-2001@areeo.or.ir

3. **13th Biennial Conference of the Australian Plant Pathology Society:** Cairns, Australia, September 24-27, 2001.

Contact: DenyerS@dpi.qld.gov.au

4. **IUFRO Meeting-*Phytophthora* Disease in Forest Trees and Natural Ecosystems:** Albany, Western Australia, October 1-5, 2001.

Information: <http://wwwscience.murdoch.edu.au/conf/phytophthora/>

5. **8th International *Verticillium* Symposium:** CSIC, Spain, November 5-9, 2001.

Contact: agljjidir@uco.es

6. **The International Workshop on Seed Health Testing:** Taipei, Taiwan December 3-8, 2001.

Information: <http://www.ntu.edu.tw/new-version/english/Bulletin/iwsht.doc>

7. 3rd International Bacterial Wilt Symposium:
White River, South Africa, February 4–8, 2002.
Information: <http://ibws.nexenservices.com/>

8. XXVIth International Horticultural Congress: Toronto, Canada, August 11–17, 2002.
Information: <http://www.ihc2002.org>

9. International Rice Congress 2002: Beijing, China, September 20–26, 2002.
Information: <http://www.cgiar.org/irri/irc2002/index.htm>

10. 3rd Asia-Pacific International Mycological Conference on Biodiversity and Biotechnology (AMC2002): Kunming, China, November 4–8, 2002.
Contact: amc2002@china.com

【会員の動静】

1. 人事

(1) 大学関係 (平成13年4月1日現在)

増田 稔	H12.11	北海道大 農学研究科 細胞工学分野 教授
国永史朗	H13. 4	北海道医療大 歯学部 人間基礎科学講座 教授
小林喜六	H13. 3	北海道大 農学研究科 退官 (植物機能開発分野 教授)
	H13. 6	JICA 専門家 アルゼンチン 国へ
富樫二郎	H13. 3	山形大学 農学部 退官 (植物病理学研究室 教授)
貫名 学	H13. 4	山形大学 農学部 生理活性物質化学研究室 教授
江原淑夫	H13. 3	東北大学 大学院農学研究科 退官 (大学院農学研究科 科長)
	H13. 4	宮城県農業短期大学 学長
松本 勤	H13. 4	秋田県立大学 短期大学部 部長 (2期目)
平塚和之	H13. 4	横浜国立大学 大学院環境情報研究院 環境遺伝子工学分野 教授
	H13. 4	奈良先端科学技術大学院大学 客員教授 (併任)

鈴木 国	H13. 4	横浜国立大学 大学院環境情報研究院 環境遺伝子工学分野 助教授
宇佐見俊行	H13. 4	千葉大学 園芸学部 植物病学研究室 助手
大内成志	H13. 3	近畿大学 農学部 退職 (植物病理学研究室 教授)
	H13. 4	近畿大学 大学院 農学専攻 特任教授
松田克礼	H13. 4	近畿大学 農学部 植物病理学研究室 助教授
尾崎武司	H13. 3	大阪府大 農学生命科学研究科 退官 (植物病理学研究室 教授)
大木 理	H13. 4	大阪府大 農学生命科学研究科 植物病理学研究室 教授
鳴坂義弘	H13. 1	神戸大学 自然科学研究科 環境応答制御学研究室 助手
一瀬勇規	H13. 4	岡山大学 農学部 遺伝子工学研究室 教授
鈴木信弘	H13. 4	岡山大学 資源生物科学研究所 助教授
荒川征夫	H13. 4	名城大学 農学部 植物病理学研究室 講師
曳地康史	H12.11	高知大学 農学部 植物工学研究室 教授
木場章範	H13. 1	高知大学 農学部 植物工学講師
伊藤真一	H13. 4	山口大学 農学部 生物生産科学講座 教授

(2) 農水省研究機関関係 (平成13年4月1日現在)

(独立行政法人農業技術研究機構関係)

稻葉忠興	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 本部 副理事長
小川 奎	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 本部 理事
皆川 望	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 総合企画調整部 企画調整室長
加納 健	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 総合企画調整部 企画調整室

梅川 學	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 環境保全型農業研究官	小原達二	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 病害防除部 細菌病害研究室
藤澤一郎	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 病害防除部長	仲川晃生	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 病害防除部 土壌病害研究室長
門田育生	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 企画調整部 研究交流科	竹原利明	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 病害防除部 土壌病害研究室
野村良邦	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 企画調整部 業務3科長	中山尊登	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 病害防除部 土壌病害研究室
法隆大輔	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 農業情報研究部 ソフトコンピューティング研究室	大村敏博	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 病害防除部 ウイルス病害研究室長
本田要八郎	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 病害防除部 病害防除システム研究室長	津田新哉	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 病害防除部 ウイルス病害研究室
斎藤初雄	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 病害防除部 病害防除システム研究室	一木珠樹	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 病害防除部 ウイルス病害研究室
岩野正敬	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 病害防除部 糸状菌病害研究室長	宇杉富雄	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 病害防除部 ファイトプラズマ病害研究室長
園田亮一	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 病害防除部 糸状菌病害研究室	田中 穂	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 病害防除部 ファイトプラズマ研究室
宮坂 篤	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 病害防除部 糸状菌病害研究室	本田健一郎	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 虫害防除部 害虫生態研究室
畔上耕児	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 病害防除部 細菌病害研究室長	田澤純子	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 耕地環境部 作付体系研究室

牛木 純	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 耕地環境部 水田雑草研究室	大崎秀樹	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 果樹研究所 生産環境部 病害研究室
福本文良	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 北陸地域基盤研究部 上席研究官	伊藤 伝	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 果樹研究所 カンキツ研究部 病害研究室長
中島敏彦	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 北陸水田利用部 病害研究室長	塙谷 浩	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 果樹研究所 カンキツ研究部 病害研究室
安田伸子	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 北陸水田利用部 病害研究室	伊藤隆男	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 果樹研究所 カンキツ研究部 病害研究室
辻本雅子	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 北陸水田利用部 病害研究室	吉田幸二	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 果樹研究所 リンゴ研究部 病害研究室長
森脇文治	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 北陸水田利用部 病害研究室	須崎浩一	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 果樹研究所 リンゴ研究部 病害研究室
新井治喜	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 中央農業総合研究センター 企画調整部 北陸分室	兼松聰子	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 果樹研究所 リンゴ研究部 病害研究室
工藤 晃	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 果樹研究所 生産環境部長	家城洋之	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 果樹研究所 ブドウ・カキ研究部長
今田 準	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 果樹研究所 生産環境部 病原機能研究室長	中野正明	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 果樹研究所 ブドウ・カキ研究部 病害研究室長
足立嘉彦	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 果樹研究所 生産環境部 病原機能研究室	島根孝典	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 果樹研究所 ブドウ・カキ研究部 病害研究室
大津善弘	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 果樹研究所 生産環境部 病害研究室長	中畠良二	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 果樹研究所 ブドウ・カキ研究部 病害研究室
岩波 徹	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 果樹研究所 生産環境部 病害研究室	手塚信夫	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 花き研究所 生産利用部長
			築尾嘉章	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 花き研究所 生産利用部 病害制御研究室長
			伊藤陽子	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 花き研究所 生産利用部 病害制御研究室

井 智史	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 花き研究所 生産利用部 病害制御研究室	大久保博人	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 畜産草地研究所 飼料生産管理部 病害制御研究室
萩原 廣	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 野菜茶業研究所 企画調整部 研究企画科長	菅原幸哉	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 畜産草地研究所 飼料生産管理部 病害制御研究室
山崎浩道	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 野菜茶業研究所 企画調整部 研究企画科	高橋賢司	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 北海道農業研究センター 生産環境部長
堀内誠三	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 野菜茶業研究所 葉根菜研究部 病害研究室長	島貫忠幸	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 北海道農業研究センター 生産環境部 病害研究室長
山内智史	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 野菜茶業研究所 葉根菜研究部 病害研究室	佐藤章夫	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 北海道農業研究センター 生産環境部 病害研究室
我孫子和雄	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 野菜茶業研究所 果菜研究部 病害研究長	加藤雅康	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 北海道農業研究センター 生産環境部 病害研究室
白川 隆	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 野菜茶業研究所 果菜研究部 病害研究室	柏崎 哲	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 北海道農業研究センター 生産環境部 ウイルス病研究室長
窪田昌春	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 野菜茶業研究所 果菜研究部 病害研究室	早野由里子	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 北海道農業研究センター 生産環境部 ウイルス病研究室
若生忠幸	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 野菜茶業研究所 果菜研究部 ヨリ科育種研究室	眞岡哲夫	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 北海道農業研究センター 生産環境部 ウイルス病研究室
布目 司	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 野菜茶業研究所 機能解析部 育種工学研究室	百田洋二	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 北海道農業研究センター 生産環境部 線虫研究室長
秋田 滋	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 野菜茶業研究所 茶業研究部 病害研究室長	植原健人	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 北海道農業研究センター 生産環境部 線虫研究室
山田憲吾	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 野菜茶業研究所 茶業研究部 病害研究室	藤田佳克	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 北海道農業研究センター 企画調整部 研究企画科長
吉田克志	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 野菜茶業研究所 茶業研究部 育種素材開発チーム	喜多孝一	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 北海道農業研究センター 総合研究部 情報解析研究室長
大槻義昭	H13. 4	退職（野菜・茶業試験場 茶栽培部長）			
御子柴義郎	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 畜産草地研究所 飼料生産管理部 病害制御研究室長			

寺見文宏 H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 北海道農業研究センター 地域基盤研究部 越冬ストレス研究室長	佐藤 剛 H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 東北農業研究センター 総合研究部 総合研究第3チーム
川上 順 H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 北海道農業研究センター 地域基盤研究部 越冬ストレス研究室	小泉信三 H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 東北農業研究センター 水田利用部 上席研究官
神 繁樹 H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 北海道農業研究センター 地域基盤研究部 越冬ストレス研究室	芦澤武人 H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 東北農業研究センター 水田利用部 水田病虫害研究室
竹中重仁 H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 北海道農業研究センター 畑作研究部 環境制御研究チーム長	善林 薫 H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 東北農業研究センター 水田利用部 水田病虫害研究室
奈良部 孝 H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 北海道農業研究センター 畑作研究部 環境制御研究チーム	佐藤 衛 H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 東北農業研究センター 野菜花き部 野菜花き育種研究室
小林有紀 H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 北海道農業研究センター 畑作研究部 環境制御研究チーム	田中 治 H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 東北農業研究センター 畜産草地部 飼料生産研究室
石黒 潔 H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 東北農業研究センター 地域基盤研究部 病害管理研究室長	仙北俊弘 H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 近畿中国四国農業研究センター 企画調整部長
兼松誠司 H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 東北農業研究センター 地域基盤研究部 病害管理研究室	小金澤碩城 H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 近畿中国四国農業研究センター 地域基盤研究部 上席研究官
大藤泰雄 H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 東北農業研究センター 地域基盤研究部 病害管理研究室	宮川久義 H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 近畿中国四国農業研究センター 地域基盤研究部 病害研究室長
小林 隆 H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 東北農業研究センター 地域基盤研究部 連携研究第1チーム	中保一浩 H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 近畿中国四国農業研究センター 地域基盤研究部 病害研究室
吉田隆延 H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 東北農業研究センター 畑地研究部 畑病虫害研究室	高山智光 H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 近畿中国四国農業研究センター 地域基盤研究部 病害研究室

井上博喜	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 近畿中国四国農業研究センター 地域基盤研究部 病害研究室	並木史郎	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 九州沖縄農業研究センター 地域基盤研究部 病害生態制御研究室
矢野 博	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 近畿中国四国農業研究センター 作物開発部 育種工学研究室長	花田 薫	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 九州沖縄農業研究センター 地域基盤研究部 病害遺伝子制御研究室長
松下 景	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 近畿中国四国農業研究センター 作物開発部 稲育種研究室	酒井淳一	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 九州沖縄農業研究センター 地域基盤研究部 病害遺伝子制御研究室
石川浩一	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 近畿中国四国農業研究センター 特産作物部 ウイルス病研究室長	奥田 充	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 九州沖縄農業研究センター 地域基盤研究部 病害遺伝子制御研究室
笹谷孝英	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 近畿中国四国農業研究センター 特産作物部 ウイルス病研究室	田中裕子	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 九州沖縄農業研究センター 地域基盤研究部 病害遺伝子制御研究室
富岡啓介	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 近畿中国四国農業研究センター 特産作物部 資源作物研究室	西村範夫	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 九州沖縄農業研究センター 野菜花き研究部 野菜花き保護研究チーム長
後藤孝雄	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 近畿中国四国農業研究センター 特産作物部	小板橋基夫	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 九州沖縄農業研究センター 野菜花き研究部 野菜花き保護研究チーム
河本征臣	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 九州沖縄農業研究センター 地域基盤研究部長	橋本知義	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 九州沖縄農業研究センター 環境資源研究部 土壤微生物研究室
西 和文	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 九州沖縄農業研究センター 地域基盤研究部 上席研究官			
中島 隆	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 九州沖縄農業研究センター 地域基盤研究部 病害生態制御研究室長			
平八重一之	H13. 4	独立行政法人農業技術研究機構 九州沖縄農業研究センター 地域基盤研究部 病害生態制御研究室			

(独立行政法人農業生物資源研究所関係)

白田 昭	H13. 4	独立行政法人農業生物資源研究所 企画調整部 企画室 研究交流科長
加来久敏	H13. 4	独立行政法人農業生物資源研究所 基盤研究部門 遺伝資源研究グループ 上席研究官
青木孝之	H13. 4	独立行政法人農業生物資源研究所 基盤研究部門 遺伝資源研究グループ 生物分類研究チーム

落合 弘和 H13. 4	独立行政法人農業生物資源研究所 基盤研究部門 遺伝資源研究グループ 微生物評価保存研究チーム	萩原 清 H13. 4	独立行政法人農業生物資源研究所 植物生命科学研究所 分子遺伝研究グループ 遺伝子機能研究チーム
林 長生 H13. 4	独立行政法人農業生物資源研究所 基盤研究部門 遺伝資源研究グループ 多様性評価研究チーム長	西口正通 H13. 4	独立行政法人農業生物資源研究所 植物生命科学研究所 分子遺伝研究グループ 遺伝子修飾研究チーム長
佐藤豊三 H13. 4	独立行政法人農業生物資源研究所 基盤研究部門 ジーンバンク 微生物資源研究チーム長	望月淳子 H13. 4	独立行政法人農業生物資源研究所 植物生命科学研究所 分子遺伝研究グループ 遗伝子修飾研究チーム
堀田光生 H13. 4	独立行政法人農業生物資源研究所 基盤研究部門 ジーンバンク 微生物資源研究チーム	川崎信二 H13. 4	独立行政法人農業生物資源研究所 植物生命科学研究所 生理機能研究グループ 耐病性研究チーム
佐藤 守 H13. 4	独立行政法人農業生物資源研究所 動物生命科学研究所 昆虫適応遺伝研究グループ 上席研究官	西澤洋子 H13. 4	独立行政法人農業生物資源研究所 植物生命科学研究所 新生物資源創出研究グループ 遗伝子設計研究チーム
中島信彦 H13. 4	独立行政法人農業生物資源研究所 動物生命科学研究所 昆虫適応遺伝研究グループ 昆虫共生媒介機構研究グループ	(独立行政法人農業環境技術研究所関係)	
渡部賢司 H13. 4	独立行政法人農業生物資源研究所 動物生命科学研究所 昆虫適応遺伝研究グループ 昆虫共生媒介機構研究グループ	松田 泉 H13. 4	独立行政法人農業環境技術研究所 企画調整部 研究交流科長
村上理都子 H13. 4	独立行政法人農業生物資源研究所 動物生命科学研究所 昆虫適応遺伝研究グループ 昆虫病理研究グループ	塩見敏樹 H13. 4	独立行政法人農業環境技術研究所 生物環境安全部 微生物・小動物研究グループ長
大橋祐子 H13. 4	独立行政法人農業生物資源研究所 植物生命科学研究所 分子遺伝研究グループ 上席研究官	西山幸司 H13. 4	独立行政法人農業環境技術研究所 生物環境安全部 微生物・小動物研究グループ 微生物評価研究官
光原一朗 H13. 4	独立行政法人農業生物資源研究所 植物生命科学研究所 分子遺伝研究グループ	松本直幸 H13. 4	独立行政法人農業環境技術研究所 生物環境安全部 微生物・小動物研究グループ 微生物生態ユニット 研究リーダー
岩井考尚 H13. 4	独立行政法人農業生物資源研究所 植物生命科学研究所 分子遺伝研究グループ	岡部郁子 H13. 4	独立行政法人農業環境技術研究所 生物環境安全部 微生物・小動物研究グループ 微生物生態ユニット

土屋健一	H13. 4	独立行政法人農業環境技術研究所 生物環境安全部 微生物・小動物研究グループ 微生物機能ユニット 研究リーダー	月星隆雄	H13. 4	独立行政法人農業環境技術研究所 農業環境インベントリーセンター 微生物分類研究室
澤田宏之	H13. 4	独立行政法人農業環境技術研究所 生物環境安全部 微生物・小動物研究グループ 微生物機能ユニット	吉田重信	H13. 4	独立行政法人農業環境技術研究所 農業環境インベントリーセンター 微生物分類研究室
高橋真実	H13. 4	独立行政法人農業環境技術研究所 生物環境安全部 微生物・小動物研究グループ 微生物機能ユニット	篠原弘亮	H13. 4	独立行政法人農業環境技術研究所 農業環境インベントリーセンター 微生物分類研究室
鈴木文彦	H13. 4	独立行政法人農業環境技術研究所 生物環境安全部 微生物・小動物研究グループ 微生物機能ユニット	(独立行政法人国際農林水産業研究センター関係)		
荒城雅昭	H13. 4	独立行政法人農業環境技術研究所 生物環境安全部 微生物・小動物研究グループ 線虫・小動物ユニット研究リーダー	本間善久	H13. 4	独立行政法人国際農林水産業研究センター 生物資源部
石井英夫	H13. 4	独立行政法人農業環境技術研究所 化学環境部 有機化学物質研究グループ 農薬影響軽減ユニット 研究リーダー	野田孝人	H13. 4	独立行政法人国際農林水産業研究センター 企画調整部 研究交流科長
長谷部 亮	H13. 4	独立行政法人農業環境技術研究所 化学環境部 有機化学物質研究グループ 土壤微生物利用ユニット 研究リーダー	安藤康雄	H13. 4	独立行政法人国際農林水産業研究センター 畜産草地部
森本 昌	H13. 4	独立行政法人農業環境技術研究所 化学環境部 有機化学物質研究グループ 土壤微生物利用ユニット	中島一雄	H13. 4	独立行政法人国際農林水産業研究センター 生物資源部
菅原和夫	H13. 4	独立行政法人農業環境技術研究所 化学環境部 重金属研究グループ 土壤化学ユニット 研究リーダー	野田千代一	H13. 4	独立行政法人国際農林水産業研究センター 沖縄支所 国際共同研究科長
対馬誠也	H13. 4	独立行政法人農業環境技術研究所 農業環境インベントリーセンター 微生物分類研究室長	大貫正俊	H13. 4	独立行政法人国際農林水産業研究センター 沖縄支所 総合防除研究室長
			河邊邦正	H13. 4	独立行政法人国際農林水産業研究センター 沖縄支所 総合防除研究室
			加藤秀憲	H13. 4	独立行政法人国際農林水産業研究センター 沖縄支所 熱帶果樹栽培利用研究室
			(独立行政法人食品総合研究所関係)		
			斎藤道彦	H13. 4	独立行政法人食品総合研究所 流通安全部 食品包装研究室長
			原口和朋	H13. 4	独立行政法人食品総合研究所 食品素材部 穀類特性研究室

(独立行政法人森林総合研究所関係)			
金子 繁 H13. 4	独立行政法人森林総合研究所 森林微生物研究領域長	石原 誠 H13. 4	独立行政法人森林総合研究所 九州支所 森林微生物管理研 究グループ
河逞祐嗣 H13. 4	独立行政法人森林総合研究所 森林微生物研究領域 森林病 理研究室長	秋葉満輝 H13. 4	独立行政法人森林総合研究所 九州支所 森林微生物管理研 究グループ
長谷川絵里 H13. 4	独立行政法人森林総合研究所 森林微生物研究領域 森林病 理研究室	(植物防疫所関係)	
阿部恭久 H13. 4	独立行政法人森林総合研究所 森林微生物研究領域 チーム 長	垣花忠明 H13. 4	名古屋植物防疫所長
服部 力 H13. 4	独立行政法人森林総合研究所 森林微生物研究領域 微生物 生態研究室	川合 昭 H13. 4	横浜植物防疫所 業務部 統括植物検疫官
太田祐子 H13. 4	独立行政法人森林総合研究所 森林微生物研究領域 微生物 生態研究室	木村 茂 H13. 4	横浜植物防疫所 調査研究部 統括調査官
中島忠一 H13. 4	独立行政法人森林総合研究所 森林昆虫研究領域 昆虫管理 研究室長	水野明文 H13. 4	横浜植物防疫所 成田支所
角田光利 H13. 4	独立行政法人森林総合研究所 きのこ・微生物研究領域 き のこ研究室長	渡部義明 H13. 4	神戸植物防疫所 業務部 統括植物検疫官
山口岳広 H13. 4	独立行政法人森林総合研究所 北海道支所 チーム長	(独立行政法人種苗管理センター関係)	
坂本泰明 H13. 4	独立行政法人森林総合研究所 北海道支所 森林生物研究グ ループ	末松章男 H13. 4	独立行政法人種苗管理セン ター 種苗監査官
窪田高徳 H13. 4	独立行政法人森林総合研究所 東北支所 チーム長	野口 健 H13. 4	独立行政法人種苗管理セン ター 北海道中央農場次長
黒田慶子 H13. 4	独立行政法人森林総合研究所 関西支所 生物被害研究グ ループ長	佐藤仁敏 H13. 4	独立行政法人種苗管理セン ター 北海道中央農場
宮下俊一郎 H13. 4	独立行政法人森林総合研究所 関西支所 生物多様性研究グ ループ	三浦 考 H13. 4	独立行政法人種苗管理セン ター 北海道中央農場
田端雅進 H13. 4	独立行政法人森林総合研究所 四国支所 流域森林保全研究 グループ	福田 豊 H13. 4	独立行政法人種苗管理セン ター 北海道中央農場
楠木 学 H13. 4	独立行政法人森林総合研究所 九州支所 地域研究官	村上隆記 H13. 4	独立行政法人種苗管理セン ター 北海道中央農場
佐橋憲生 H13. 4	独立行政法人森林総合研究所 九州支所 チーム長	鈴木 敦 H13. 4	独立行政法人種苗管理セン ター 北海道中央農場
		米村 信 H13. 4	独立行政法人種苗管理セン ター 胆振農場 種苗生産部 長
		北田亮二 H13. 4	独立行政法人種苗管理セン ター 金屋農場長
		山口栄二 H13. 4	独立行政法人種苗管理セン ター 雲仙農場
		牧野 華 H13. 4	独立行政法人種苗管理セン ター 知覧農場

(指定試験関係)

佐山 充 H13. 4 退職 (北海道農業試験場畑作研究センター)
長崎県総合農林試験場 愛野馬鈴薯支場へ

(3) 都道府県試験研究機関関係 (平成13年4月1日現在)

福島千万男 H13. 3 退職 (津軽地域病害虫防除所長)
大日本インキ化学工業へ

藤田孝二 H13. 4 青森県りんご試験場 総括研究管理員 (病虫肥料部長)

桑田博隆 H13. 4 青森県畑作園芸試験場 病害虫防除室総括研究管理員

仲谷房治 H13. 4 岩手県農業研究センター
県北農業研究所 次長

鈴木繁実 H13. 4 岩手県農業研究センター
病害虫部長 (兼 岩手県病害虫防除所長)

武田眞一 H13. 4 岩手県農業研究センター
生産環境部長

藤田靖久 H13. 4 山形県立農業大学校長

山川隆平 H13. 4 山形県農業技術課長

竹田富一 H13. 4 山形県置賜総合支庁農業振興課 技術補佐

梅本清作 H13. 4 千葉県農業大学校 主幹

竹内妙子 H13. 4 千葉県農業総合研究センター
生産環境部病理研究室 室長
千葉県農業試験場、暖地園芸試験場、原種農場、農業化学検査所を統合 → 農業総合研究センター

小林正伸 H13. 4 神奈川県農業振興課 専門技術員

浅利 覚 H13. 4 山梨県農政部農業技術課・技術指導監

小野光明 H13. 4 山梨県農政部農業技術課・研究環境担当

舟久保太一 H13. 4 山梨県果樹試験場・生産環境部・病害虫科

八木 敏江 H13. 4 石川県農業総合研究センター
主任研究員 兼 農産加工科科長

久保幸雄 H13. 3 退職 (福井県農業試験場
場長)
福井県植物防疫協会 (専務)
～

富川 章 H13. 4 三重県科学技術振興センター
農業研究部 循環機能開発グ
ループ グループリーダー
(組織再編による異動)

小玉孝司 H13. 3 退職 (奈良県農林部農業振興
課 課長)
H13. 4 住友化学工業 (株) アグロ事
業部へ

小畠博文 H13. 3 退職 (奈良県農業技術セン
ター センター長)

草刈眞一 H13. 4 奈良県植物協会へ

那須英夫 H13. 4 大阪府立農林技術センター企
画部開発普及課長

岡山県農業総合センター 農
業試験場 果樹研究室 室長

酒井泰文 H13. 4 広島県 農業技術センター環
境研究部 部長

佐山 充 H13. 4 長崎県総合農林試験場 愛野
馬鈴薯支場 環境科長(参事)

松尾和敏 H13. 4 長崎県総合農林試験場 環境
部 病害虫科長

森田 昭 H13. 4 長崎県総合農林試験場 東彼
杵茶業支場長

坂口壮一 H13. 4 長崎県総合農林試験場 作物
部長

太田孝彦 H13. 3 退職 (長崎県果樹試験場
場長)

安藤俊二 H13. 4 大分県 農業技術センター
次長 (兼務) 植物防疫部長

加藤徳弘 H13. 4 大分県 農業技術センター
果樹部 主幹研究員

吉松英明 H13. 4 大分県 営農指導課病害虫專
門技術員 (兼務) 農業技術セ
ンター 植物防疫部主任研究
員

河野伸二 H13. 4 沖縄県農林水産部営農推進課
専門技術員

2. 学位取得者（課程博士・論文博士）

佐山 充 H13. 3	北海道大 博士（農学）テンサイそく根病および根腐病の生物的防除法に関する研究	Subandiyah, Siti H12. 9	岐阜大学 博士（農学）カンキツグリーニング病の性状と生物防除
佐藤 衛 H12. 8	東北大学 博士（農学）アブラナ科植物に寄生するベト病菌の生態に関する研究	宇佐見俊行 H13. 3	千葉大学 博士（農学） <i>Verticillium dahliae</i> の病原性系統特異的 DNA 領域の解析
大木健広 H13. 3	東北大学 博士（農学）根部エンドファイト <i>Heteroconium chaetospira</i> によるハクサイ根こぶ病の抑制	染谷信孝 H13. 3	東京農工大学 博士（農学）イネ菌類病のバイオコントロール法の開発と作用機構の解析
岩波 徹 H12. 9	東京大学 博士（農学）温州萎縮ウイルスおよびその近縁ウイルスに関する分類学的研究	高津康正 H13. 3	東京農工大学 博士（農学）菌類病の複合抵抗性をもつ組換え植物の作出に関する研究
李 榮珍 H13. 3	東京大学 博士（農学）植物病原菌類における ABC トランスポーター遺伝子の分布とその薬剤耐性に関わる機能に関する研究	藤 晋一 H12. 9	新潟大学 博士（農学）ヤマノイモモザイク病の病原ウイルスの分子分類並びに防除法に関する研究
竹本 浩 H13. 3	東京大学 博士（農学）ダイズ退緑斑紋ウイルス遺伝子の機能に関する研究	丹野史典 H12. 9	新潟大学 博士（農学）ムギ類に感染する昆虫媒介性植物ウイルスの遺伝子解析
澤柳利実 H13. 3	東京大学 博士（農学）ファイトプラズマの分子系統分類	岡部郁子 H13. 3	岐阜大学 博士（農学）白絹病における遺伝的変異に関する研究
中島千晴 H13. 3	東京農業大学 博士（農学）Taxonomic study of <i>Cercospora</i> and allied genera in Japan	藤原正幸 H13. 3	大阪府大 博士（農学）ウリ科野生植物に含まれる抗ウイルス活性物質フィガレンに関する研究
張 飛雲 H13. 3	東京農工大学 博士（農学）イネ科植物ウイルスの遺伝子構造と機能解析ならびに宿主抵抗性因子に関する研究	山田朋宏 H13. 3	大阪府大 博士（農学）ウイルス抵抗性 <i>Cucumis figarei</i> が有する有用形質の植物ウイルス病制御への利用に関する研究
高橋 翼 H13. 3	東京農工大学 博士（農学）トマトモザイクウイルス 30 K タンパク質の機能解析ならびに GFP 融合タンパク質発現ベクターの開発	衛藤由希子 H13. 3	神戸大学 博士（農学）rDNA・非病原性遺伝子・転移因子から見た <i>Pyricularia</i> 属菌集団の遺伝的構造
Gede Suastika H13. 3	東京農工大学 博士（農学）Molecular studies on <i>Citrus tristeza virus</i>	Zhang Liqun H13. 3	神戸大学 博士（学術）Studies on biological control mechanisms with <i>Pseudomonas fluorescens</i> FPT9601
坂本泰明 H12. 3	岐阜大学 博士（農学）イヌエンジュおよびヤナギ類に発生した細菌性病害の病理学的研究		

- 杉本 恵 H13. 3 岡山大学 博士（学術）植物
防御応答に関与する情報伝達
分子の解析 エンドウ・褐紋
病菌エリシターをモデルとし
て
- Andi Salamah H13. 3 岡山大学 博士(学術)
Harpin-induced hypersensi-
tive reaction and its suppres-
sion by methyl jasmonate in
Tobacco
- Salamiah H13. 3 鳥取大学 博士（農学）
Genetic Analysis of Patho-
genicity and Host-specific
toxin production of *Alternaria
alternata* pathogens by proto-
plast fusion
- 和田行央 H13. 3 鹿児島大学 博士（農学）イ
ンゲンマメ黄斑モザイクウイ
ルスの系統ならびに病原性に
関する研究
- 林 長生 H13. 3 九州大学 博士（農学）いも
ち病菌の寄生性分化に関する
研究

3. 海外長期出張者

- 豊田和弘 H13. 5 岡山大 UK ジョンイネス
～H14. 2 研究所 セインズバリーラボ
ラトリ一

【書評】

鈴井孝仁・岡田齋夫・国見裕久・牧野孝宏・斎藤雅典・宮
下清貴編：「微生物の資材化：研究の最前線」B5版、364
pp., 発行：ソフトサイエンス社、¥12,000（税別）

微生物とその機能の多様性に注目し、それを農業生産の場、環境管理の場に利用しようとする試みは早くからみられる。その研究成果についてはこれまでにも繰り返し取り上げられ、成書にもなっている。食糧問題・環境問題が重視されるようになってきた現在、その中で果たす微生物の役割への期待もますます高まっている。このような現状のなかで、微生物利用の実用化にむけて、微生物の資材化の研究に焦点をおいた本書が出版された。本書はこれまで、各分野で微生物の研究に携わってきた研究者たちの編集によるものであり、各項目の執筆者は現在微生物の利用、資材化に正面から取り組んでいる研究者たちが中心になって

いる。その内容は、微生物の多様性とその資材化に関する総論をはじめとして、作物生産、病害防除、害虫防除、雑草防除、さらには環境管理における微生物の利用と資材化と、多岐にわたっている。各項目において、海外の研究、日本の研究の最前線が紹介され、興味深い成果が報告されている。項目間に精粗・アンバランスはあるものの、いずれの章も興味深く読めるものとなっている。最前線の研究成果が大変興味深いのはもちろんであるが、その実用化への目途がどのようなものであるか、執筆者の希望をまじえた考え方方が示されているのも興味深い。さらに、研究成果の紹介ばかりでなく、研究のすすめ方、微生物利用の可能性、その方法など執筆者の考え方方が随所に示されており、微生物利用の方向・可能性を考えるうえで貴重である。研究者の情熱にふれる思いがする。通常、このような解説書は、自分の関係する分野の項目には目を通すものの、他の項目は必要に応じて見ようとするものである。本書は各項目とも興味深い内容にあふれているので、ぜひ全章を通して、自己の専門知識の確認と専門以外の分野の知識を得るとともに、考え方を知ってほしい。他分野から受ける示唆は大きいものと考えられ、必ずや自分の研究に役に立つであろう。微生物とその機能の研究成果が蓄積され、その利用が実用化されはじめている現在、このような成書が出版されたことは大きな意義をもつ。現在研究に携わっている人たち、これから研究をはじめようとする人たちの必読の書である。

（生越 明）

【学会ニュース編集委員会コーナー】

編集委員会報告

学会ニュース編集委員会は4月4日12時より開催された。当日の主な議題は以下の二点であり原案通り了承された。すなわち、1. 従来課程博士のみを対象としていた「学位取得者紹介」を論文博士についても行う。2. 「書評」の対象となる著書は学会員が執筆したものに限るとされていたが、学会員の紹介であれば非学会員の著書でも同様に扱う。

情報提供および投稿のお願い：

本ニュースは身近な関連情報を気軽に交換することを主旨として発行されております。会員の各種出版物の御紹介、書評、会員の動静、学会運営に対する御意見、会員の関連学会における受賞、プロジェクトの紹介など情報を寄せいただきたくお願いいたします。

投稿宛先：〒170-8484 豊島区駒込1-43-11

日本植物防疫協会ビル内

日本植物病理学会事務局

学会ニュース編集委員会

FAX: 03-3943-6086

または下記学会ニュース編集委員へ：

松山宣明，塩見敏樹，難波成任，渡辺京子，
田中 穂各委員宛

に有難うございました。これからもご健康には充分に
ご留意され学会に対して変わらぬご援助を賜りますよ
うお願い申し上げます。

学会員の皆様、日頃から学会ニュースの編集に関し
様々な形でご協力下さいまして有難うございます。今
後とも宜しくお願い申し上げます。ニュース編集委員
は、今春、一部委員の交代がありましたが新旧委員の
努力により引継ぎもスムーズに行われました。

(松山宣明)

編集後記

この度めでたく名誉会員に推挙されました後藤正夫
先生、永年会員に推挙されました兼子 勇、澤村健
三、安盛 博の三先生におかれましては、長年植物病
理学および学会の発展のためにご尽力下さいまして誠

会員のご逝去

正会員の柏崎 哲氏は平成13年6月7日に逝去され
ました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。